

## 6. 解説：地球の温暖化と寒冷化

地球温暖化/気候変動の影響が具体的な脅威事象として顕在化し、グローバル・リスクとして認識されてきている。「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第I作業部会報告書（自然科学的根拠）」が2021年8月9日（月）17時（日本時間）に公表された。その「政策決定者向け要約（SPM）の概要」において、下記のように記されている。

### A. 気候の現状

A.1 人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている。

A.2 気候システム全般にわたる最近の変化の規模と、気候システムの側面の現在の状態は、何世紀も何千年もの間、前例のなかったものである。

### B. 将来ありうる気候

B.1 世界平均気温は、本報告書で考慮した全ての排出シナリオにおいて、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続ける。向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に、地球温暖化は1.5℃及び2℃を超える。

出典：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第I作業部会報告書（自然科学的根拠）の公表について 環境省 令和3年8月9日 <http://www.env.go.jp/press/109850.html>

関連：温暖化は人間が原因＝IPCC報告「人類への赤信号」と国連事務総長 2021年8月9日 BBC 環境問題担当編集委員 BBC NEWS <https://www.bbc.com/japanese/58142213>

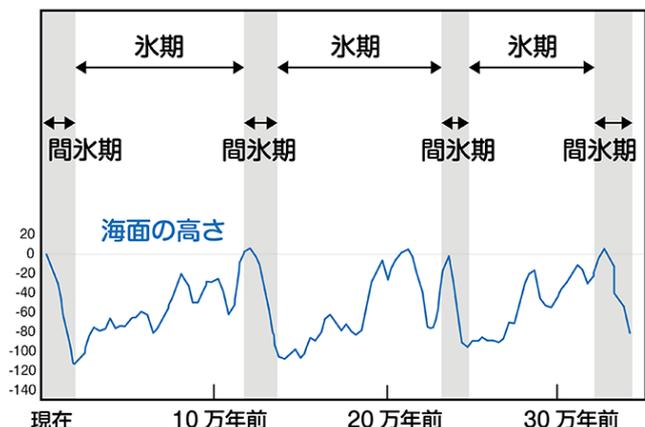
IPCCの報告は、海面水位が今世紀末までに2m上昇する可能性も「排除できない」としているが、これは約6000年前に「縄文海進」で経験している。「縄文前期6000年前の平均気温は現在より2℃高かった。縄文前期、海面が約5メートル上昇していたことは地質学的に実証されている。」貝塚が現在の内陸部奥深く見られるのはその証左である。

出典：地球温暖化「縄文海進地図」は「未来予想図」か 橋本淳司水ジャーナリスト。アクアスフィア・水教育研究所代表 2018/10/24(水) 12:06 YAHOO! JAPAN ニュース <https://news.yahoo.co.jp/byline/hashimotojunji/20181024-00101608>

更に、地球歴史的な時間軸でみれば、氷河期（寒冷化）と間氷期（温暖化）を約10万年サイクルで繰り返している。それに応じて、海面の高さも当然変動する。最近の温暖化は、「温室効果ガス」の影響もあり、20世紀後半からの気温上昇が地球歴史上にないスピードで上昇しているという特徴を有する。

出典：海と地球を学んじょうコラム

<https://www.jamstec.go.jp/sp2/column/03/>



気候変動はその時々々の生態系、ひいては人類に影響を及ぼす。長期的視点が欠かせない。